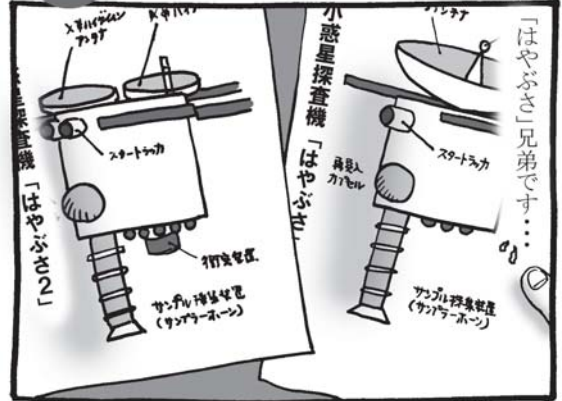




はやぶさの口

宇宙は、よく海にたとえられます。子どもの頃「宇宙の海は俺の海♪」なるテーマソングが始まる、宇宙海賊が活躍するアニメが大人気でした。でも「宇宙海」のイメージの源はずっと古く、飛鳥時代の歌人柿本人麻呂は「天の海に 雲の波立ち 月の船 星の林に 漕ぎ隠る 見ゆ」と詠みました。思わず夜空を仰ぎたくなる叙景歌です。光輝く流れ星となって、小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還したのは5年前。現在は、弟分の「はやぶさ2」が元気に宇宙を航行中です。「はやぶさ2」の航海こそ、「天の海」を探

6/13 ははやぶさの日



す試みと言えるかもしれない。地球の海がどこから来たのか、その源を探するため、遠い小惑星を目指しています。はやぶさが帰還した6月13日は「はやぶさの日」。晩酌の言い訳にして乾杯しつつ、弟分にエールを送りたいと思っっています。がんばれ「はやぶさ2」!

生命の海から

館長 山中敦子

生命の海科学館

☎ 66・1717

蒲郡の歴史

学芸員 小田美紀

博物館 ☎ 68・1881

今から約160年前、嘉永7年(1854年)11月4日・5日に、南海トラフ沿いを震源とする大きな地震が発生しました。その範囲は関東地方から近畿地方にまで及ぶもので、特に駿河湾の海岸沿いの被害が大きかったようです。当時、形原村には、旗本・巨勢氏の陣屋が置かれていました。その地に伝わっている「形原役所記録」には、巨勢氏を領主とする村々(蒲郡市域では形原村と西浦村)から地震に関する報告が寄せられています。

【4日朝10時頃の地震】
 ・建物の破損数は多かったが、倒れるほどの被害はなし。けが人もなし。
 ・海岸に高波がきて津波を警戒し立ち退きの用意もしたが、追々

かつての南海トラフ沿いの大地震

全体の被害は少なかったとはいえ、西浦半島西海岸沖の松島(海抜約1メートル)を越えるほどの波がきたというのは驚きです。松島にはその名の通り、現在もクロマツが生えています。この地震の時あるいは明治22年(1889年)の洪水の際に、多くが流出してしまったといわれています。昭和6年(1931年)に倉舞港の港湾修築によって、松島南端へと続く防波堤が築かれ、歩いて渡れるようになりました。

平常化。西浦では松島を高波が越えるほどで、衣類や穀物が濡れる被害が5軒。
 ・大地震発生までも度々地震があったため、形原や西浦の人々は心配して野宿をした。
 【5日夕方の地震】
 ・大地震のあと、雷のような鳴音がした。その後も度々地震が起こり、鳴音も小さくはなりつつも7日になってもやまなかった。



嘉永2年(1849年)の西浦村絵図(部分) 個人蔵上が西。矢印の先が松島です。